



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして

12



「ぬくもりの森にあそびに行つて」 ゆたか生活支援事業所みどり 森井 照子さん ※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 50 周年に想う③ P2～3
～あれから半世紀、仲間たちは今 その3～
- ▶ きょうされん第 42 回全国大会 in あいち開催 P4～6

2019年 12月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

連載

シリーズ 50周年に想う 30

あれから半世紀、仲間たちは今

その3

10月号から連載した「同窓会」の3回目、最終回です。7月12日に開催した「同窓会」から5ヶ月になりま
す。この10月にはきょうされん全国大会が名古屋で開催され、公開シンポジウムには磯部さんや加藤さんが登
壇しました。また様々な企画にたくさんの方々が参加しました。現在は3月に行われるゆたか福祉会50周年
記念集会に向け、歌や踊りの練習が進められています。それに先立って行われた「同窓会」。参加した皆さんは、
どんなことを思い、どんなことを感じたのか、参加した皆さんの「声」を紹介します。

初期の時代を

共に歩んだ皆さんの感想

「同窓会に参加して」

鈴木峯保

会場は立派で、本部事務局からは7人も見えて、意気込みに圧倒されました。50年前、10人前後の仲間たちと「ジャズドラム」づくりで真剣に取り組んだことが懐かしく思い出されました。

とても残念に思ったのは、初期の仲間のご両親がほとんど他界されていたことでした。「この子より1日だけ長生きしたい」とか、「何度この子と心中しようと考えたことか」といった親の皆さんからの声。しかし、ゆたか福祉会の仲間を大事にする姿に感動され、長期プラン作りではみんなの夢や希望を出し合い展望を創ってきた取り組みなど、多くのことが思い出されました。

「50年がんばりました!!これからもよろしく!」

稲垣孝雄

「50年前に苦楽を共にすごした仲間たちに会える」と思うと、とてもワクワクした気持ちで会場の中へ入りました。その会場は、結婚式などが行われることと有名な熱田神宮会館でした。

中へ入ると、昔なつかしい顔・顔顔が集まっております、胸が篤くなりました。仲間と職員の発表コーナーでは、参加した仲間のアンケートが紹介されました。

当時、ゆたか共同作業所にこだわりました。経済第一主義の中、みんなで一緒に懸命に働くことが強く求められました。利益第一主義の中で職員も仲間も一緒に働く中で、「仲間」という言葉が生まれました。

「経験が私の一生の生き方につながって」

数納幸子



51年ぶりに会った仲間たち。グッドウィル工場の古いスレートの工場と、その前にひろがるグラウンドで皆と走り回っていた光景が目につきます。私にとって、1年に満たない経験でしたが、そこで知ったこと、学んだことは、その後の私の一生の生き方につながっていったと思っています。



ゆたか作業所初期の一泊旅行

仲間の皆さんの”声“

《堀昌彦さん》

みんな元気だったわ。ごはんおいしくいただいた。つかれたわ。昔、ソフトボール大会やったんだわ。マラソン大会で走ったときにてんかん発作で倒れたんだわ。

《近藤光子さん》みんなおたでうれしかった。

《加藤春子さん》

峯保さんと久しぶりに話せて嬉しかった。稲垣さんとも会えて良かった。昔の職員と仲間同士でお酒を飲みかわしたかったけど、車で来ている職員もいて、実現できなかったのが残念だった。いつかそういう「会」もあつたらいいねと思う。

《柘植 敬子さん》

なつかしい職員も来とったね。でもあんまりお話しはできなかった。上浜(昔作業所があったところ)のスライド見て、鈴木せつちゃんと一緒にゴムをカッターで削る仕事や一般企業に実習に行ったことも思い出した。なつかしいみんなに会えて本当によかった。

《福留 英修さん》

みんなに会えてよかった。ちいちゃん(野添さん)に会えた。ごはんも良かった。写真も早くほしい。

《鈴木 節子さん》

小学校から同じクラス、三谷さんおらんかった。会いたかった。敬子ちゃん、光つちゃんと辰ちゃんと、ちーちゃんに会った。なつかしい人に会った。なつかしい話できた。「年とったね」って…。「またいつか会おうね」って…。

《野添 ちづる》 よかった。

《坂野 辰江さん》

おったよ。春ちゃんおった。美味しかったよ。

《桑島 聡さん》

みんな、いたよー、よかったよー、はい

《磯部 和明さん》

お久しぶりの職員に会った。また今度50周年の記念の時に来てほしい。北海道の大ちゃん、また50周年に来るの楽しみ。みんなに会いたい。

職員の方々の感想

ゆたか作業所 吉田 博

ゆたか作業所の所長として、参加の仲間の付添いを兼ね参加させていただきました。久しぶりにお会いする方、初めてお会いする方、50年の歴史をかみしめての参加で、本当に良い経験をさせていただきました。



参加できなかった仲間の近況報告

長門 敬子さん (ゆたか希望の家)

長門さんは数年前に、自主製品を作っている「くりのき班」を引退されました。現在は高齢のなかま

ゆたか作業所組曲を稲垣さんがイキイキとうたう姿に感動しました。「昔は良かったね」で終わらせず、新たな歴史を刻んでいかなければと今いる私たちの責任の重さも改めて実感した同窓会でした。

第2ゆたか希望の家 永井 規照

ゆたか作業所時代の貴重な話を聞ける機会に参加することができて感謝します。自分が関わってきた仲間(当日来られなかった方含め)の昔の姿を知ることができてよかったです。

ゆたか生活支援事業所あつた 鈴木 希美

苦楽を共にしてきた昔からの絆は、言葉にならないものによつて繋がっているんだなあと感じました。

ふれあい共同作業所 飯守 芳子

鈴木さんが懐かしい仲間の方と言葉を交わされるのを拝見して、私も感無量でした。改めて創草期のご苦労の中に楽しいこともあったお話を伺い、写真などもたくさん写されてありました。

資料としても価値の高いものと感銘を受けました。ありがとうございます。

ゆたか希望の家 三宅 良明

同窓会に引率参加させていただきありがとうございました。参加者の皆さんの笑顔や再会を懐かしむ声をたくさん聴くことができ良かったです。

が多く所属する「ことぶき班」で毎日を過ごされています。「くりのき班」のなかまと関わると、時折笑顔を見せて下さることもあります。大きな病気での手術もあったが、健康に留意しながら、ゆったりと楽しく過ごすことを大事にしています。日中活動の中でみんなと集る中で、楽しみや「生きがい」をみつけていきたいと思っています。

最後は金屏風の前にみんなで集合し、「ゆたか作業所同窓会」と書かれた横断幕を掲げて記念撮影をしました。あつという間に過ぎた楽しいひととき。久しぶりに会えた皆さんの笑顔にほっこりし、「また逢う日まで元気だね」と言葉を交わしました。

改めておひとりお一人の歩んだ人生に触れ、今をより良く、そして、将来についてのねがいが叶うよう取り組んでいきたいと感じた「同窓会」でした。

広報編集委員 向 幸子



10月
25・26日

きょううされん第42回全国大会 in あいち開催

「つなげよまい 未来へ つながるまい 仲間の輪く共同作業所はしまりの地 あいちからく」をテーマに、きょううされん第42回全国大会が10月25日(金)〜26日(土)の2日間、名古屋国際会議場を会場に行われました。全国から3,200名を超える参加者、また両日をあわせてのべ800名を超えるボランティアの皆さんに支えられての開催でした。ゆたか福祉会からもキャストをはじめ、たくさんの方が参加がありました。参加した皆さんの「声」を紹介します。

大会を終えて

鈴木清寛

(理事長/大会実行委員長)



今大会はこの愛知・名古屋で、全国で最初の障害者の働く場「ゆたか共同

作業所」が設立されてから50年目の節目の大会でした。また、全国に広がった共同作業所づくり運動の要請にこたえ、「きょううされん」(設立時は「共同作業所全国連絡会」)が結成されて42年目の記念すべき大会でした。

大会はゆたか福祉会をはじめ、

きょううされん加盟事業所と関係者の総力を結集し、共同作業所運動の原点と歴史を確認し、今後の展望を明らかにすることを大きなテーマとして開催されました。

開会全体会に続く特別企画・合唱構成「高く飛ばそう」では、障害者当事者を中心に500名の大合唱と構成詩の朗読が行われました。また特別企画のシンポジウムや分科会・利用者フォーラムなど、多彩な企画が準備されました。

二日間を通し参加者の学びと感動の渦をつくりだし、成功を収めることができたことに、大きな喜びを感じました。



鈴木 峯保

(顧問/きょううされん愛知支部長)

大会を終えて率直に思うことは「無事に開催できて良かった」という気持ちです。

愛知県下の加盟事業所から若手の職員を出していただき、実行委員会の事務局長は30代前半の中堅職員に担ってもらいました。また、専従職員もゆたか福祉会から派遣してもらいました。後援や協賛名義のお願いに、愛知県下の全自治体、社会福祉協議会訪問を行ったことや、自己資金作り等もほぼ達成できたことは大きな財産となりました。

大会参加者、ボランティア等を含めて、総勢4,000名近い人々に参加していただき、特に東海4県の事業所からの実行委員をはじめ、参加者にも盛り上げていただきました。自分にとってここまで「きょううされん」が大きくなり、障害者政策に影響を与えるような団体に成長したことを喜び、記念すべき大会、大事な区切りの大会となりました。

今治 信一郎

(ライフサポートゆたか)

きょううされん愛知支部事務局長

共同作業所50周年を迎える節目の記念大会として、様々な企画、分科会が実施されました。特に50年の歴史を歌と朗読劇で表現した総勢500名のステージは「圧巻だった!!」皆さんが生き活きと歌いあげている姿を見て感動した!」などのたくさんのお声を頂きました。直前までの練習では、「大丈夫かな?上手いくかな?」との不安もありましたが、皆さんの本番の強さを感じました。今回の大会の大きな特徴としては2点あります。

1 点目は大会の様々な場面で「仲間たち」が活躍したことです。準備の段階から仲間たちが参加し、当日の企画、受付、案内と、全国からの皆さんへ「心のこもったおもてなし」を精一杯果たしてくれました。「こんなに仲間たちが参加している大会は初めて!」の感想は、大会成功の大きな要因と言えます。

2 点目は、東海ブロックの若手が運営面で大きな役割を担えたという事です。愛知大会ではありますが、岐阜、三重、静岡の東海ブロックが一丸となって1年半に渡る準備を進める事が出来ました。次世代を担う若者がベテランと一緒に、大会を経験できた事は非常に大きな意義があると言えます。

大会は盛会に終える事ができましたが、次に繋げる事が大事と言えます。多くの皆さんからのご協力に感謝し、次に繋げていきたいと思えます。

参加者の声

初めて参加した職員

なるみ作業所 安藤 玲偉

愛知で開催されたきょうざれん大会。新入職員の私もなかまの引率で参加させていただきました。会場の名古屋国際会議場へ向かうと、驚いたのは人の多さです。なかまのみなさんは異動になった職員との再会を喜んだり、自主製品販売コーナーで買い物を楽しんだり、いつもとは少し違った姿を見る事ができました。



なるみ作業所では全国の皆さんの前で、なかまと一緒にロックソローランを披露しました。盛大な拍手を頂くことができた。き、貴重なた。 な体験となりまし

つゆはし作業所 深田 郁斗
4月に入職して初めての参



加でした。大会では合唱団として参加しました。合唱

は数か月前から作業所や企画を通して練習を重ね、本番は成功！会場の仲間から「一緒に歌ったよ」という声を聞き、達成感を得ました。二日目は抹茶を点てたり甲冑を着たり、普段できない体験に仲間の多くの笑顔を見ることができ大満足です。

販売では作業所の自主製品を並べて頂き、自分達が一生懸命作っている製品を誇らしく思いました。

ゆたか生活支援事業所みなみ

前田 ゆきな

今回が初めてのきょうざれん全国大会への参加でした。一日目は開会式やシンポジウムなどの全体会と夕食交流会、二日目は「暮らし・住居」の分科会に参加させていただきました。

特別企画の「合唱」では、仲間や合唱団の方500名とい

う多くの人が舞台に立ち、一生懸命練習していた合唱・手話を楽しそうに披露する姿は圧巻でした。

今回は要員としての参加ではなかったため、次に愛知で開催される際は是非、キャストとして参加してみたいです。

ゆたか生活支援事業所ながわ

住田 涼斗

2日間、研修で参加しました。1日目はお昼からの参加で、仲間が作ったやろまい弁当を食べ、仲間の合唱を聞きました。総勢400名近い仲間が舞台上で歌う姿はとても圧巻で感動しました。

分科会では、先輩職員から若い世代への引継ぎで、理念の重要性について報告がありました。ゆたか福祉会も理念を大切にしていることは共通しているため、私自身も理念について「現場で実践できているのか」を考える機会になりました。

ワークセンターフレンズ星崎

荒木 雄太

初日はキャストとしてお弁当



の配布や夕食交流会の担当を、2日目は

施設の仲間たちと利用者ファミリー(ダンボール甲冑体験)などに参加しました。

夕食交流会や歌の発表などの場面で、いきいきとスポットライトを浴びる仲間をみていると、「私はここにいる。主役は私。」と心の底から強く訴えかけているように思えました。

仲間の思いを受け止め、今以上に仲間たちの輪を広げていくための支えになればと思います。強く。

法人本部 岩口 元氣

キャストや引率ではなく、「一般参加者」として大会に参加しました。開会式から閉会式まで、大会を満喫させて頂きました。1日目の仲間や職員、関係者総勢400名による合唱構成はその迫力に圧倒されました。2日目の分科会「働く」では、障害者の「働く」について

改めて考えさせられました。最後に私たちが参加者のために、たくさん準備や当日のサポートをしてくださった関係者の皆様、本当に充実した2日間をありがとうございました。

あかつき共同作業所 島山 麻衣
初日は合唱構成に参加する仲間の引率をし、2日目は分科会へ参加してきました。

合唱構成では一緒に舞台上に上がることで、舞台からの景色を仲間たちと同じ目線で共有することができ、その感動を感じることができたのは貴重な経験となりました。

緊張感もある中、堂々と歌いきる仲間の姿には、たくさん刺激を受けました。分科会では食品表示法について学び、あかつきの自主製品であるパン・クッキーにも活用していることと幸いです。



ご家族

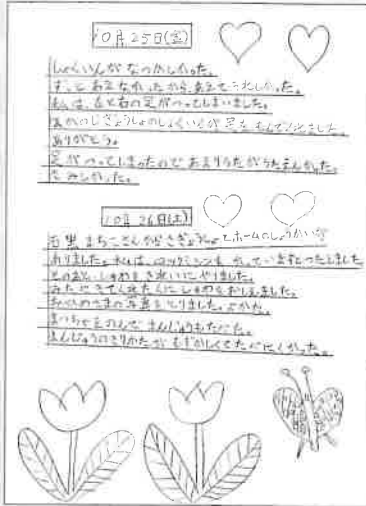
初日はボランティア&公開シンポジウム、2日目は特別分科会③「優生思想と障害者問題」に参加。知らないとは、とてもおそろしいことだとあらためて実感。障がい児・者が社会参加するようになって、知らないから、まだまだ偏見がある現実。
 「ごびない・あきらめない・ぶれない」姿勢と、本人たちに伝えるために保護者・支援者が「学び続ける（情報は更新する）・交流する」こと。学びの多い2日間でした。

リサイクルみなみ作業所保護者 浅野美子

仲間



つゆはし作業所 山田 和江さん



ふれあい共同作業所 丸橋 弘子さん

きょうさけん大会 in 豊知 (2019.10.25~26) 感想記入用紙
 ふれあい共同作業所 (氏名 丸橋 弘子)

合	唱	団	に	加	し	て	名	古	屋	市	の	青	年	合	唱	回	の
方	と	、	親	習	た	私	の	作	ら	一	生	年	本	本	に	返	返
加	し	ま	し	た	ま	し	の	贈	っ	た	っ	ト	一	一	い	を	を
南	し	し	た	項	ま	し	の	り	物	頭	張	く	一	一	い	を	を
若	し	て	歌	い	ま	し	の	山	さ	ん	の	に	一	一	い	を	を
草	ま	し	と	握	ま	し	の	分	分	分	か	一	一	い	を	を	を
松	し	か	り	た	す	す	の	た	た	た	が	一	一	い	を	を	を

きっちん Yutakaのお弁当づくり

きょうされん 大会が開催される2日間、個数限定で販売された。つながるまい御膳”。きっちん Yutakaも1,000食のうち、98食を製造することになりました。
 見た目にも彩り豊かで、季節感を感じていただける素材選び、冷めてもおいしく食べられる味付けなど、栄養士・調理員で検討を重ねました。お弁当を食べている皆さんの笑顔を思い浮かべながら、ポリユームはもちろん、既製品や冷凍食品を使わず、あくまで手づくりにもこだわりました。
 給食提供と平行してのお弁当作りは大変でしたが、50周年のこの機会に、お弁当作りを通して全国の皆さんとの繋がりを感ずることができた2日間でした。
 夏目 智穂



大会専従として 関わって

右も左も分からぬまま専従になり約一年。見慣れた景色が一変した寂しさもありましたが、自分の狭い範囲を飛び越え、法人の枠も飛び越え働かせて頂いたと感ずります。準備期間中は要員の方や、なかまたち、大勢のキラキラ輝く笑顔に出逢えました。

当日は大会の雰囲気味わうゆとりもなく過ごしていましたが、頂いた感想を読んでも「本当に終わったんだ」と感じています。中でもあるお母さんから「合唱に参加することが息子の生きる力になりました」「お世話になった方々に、このうれしさとありがとうございますの気持ちをお伝え頂けたら」とメールを頂いたときは涙が溢れ、心から専従をやった良かったと思えました。

出向させて頂いた「ゆたか」に、大会にご協力下さった皆様様に心から感謝申し上げます。

阿部直美



きょうされん愛知支部 名古屋市行政懇談会開催

去る11月5日(火)、きょうされん愛知支部略称 あいされんと名古屋市との行政懇談会が行われました。例年行われている名古屋市との行政懇談会は、障害当事者、家族、職員、関係者の要望、願いを直接行政に訴える事ができる大事な機会となっています。

今年は前半はやるまい会(きょうされん愛知支部に組織された障害当事者の会)との懇談が行われ、後半は、家族、職員との懇談の2部構成で開催されました。

やるまい会との懇談では、直前に実施された

「きょうされん第42回全国大会 in あいち」の大会の様子や協力の御礼をお伝えしました。その後仲間たちからは、切実な要望が多数出されました。

「休みの日に自由に出かけられるようヘルパーを増やしてほしい」「給料が今よりも増えるよう、たくさんの仕事を名古屋市からも紹介してください」「生活保護の切り下げが暮らしを圧迫しています。なんとかかして欲しい」等の率直な要望が出されていました。

2部の家族、職員からの要望では、この間、切り下げられてきている報酬について、名古屋市独自の補助金や加算制度の充実に対する要望が出されました。特にこの事業所も人材不足が深刻な事態となっており、「事業の継続が危機的な状況である」などの訴えがされました。

名古屋市からは、「皆さんからの要望をどう施策に活かしていくのか検討していきたい」との回答でした。すぐに施策等に反映出来ない事もあります。今後、要望を発信していく事を大事にしていきたいと思っております。

障害福祉についての法制度拡充を求める請願 第43次国会請願署名・募金運動にご協力を!

今年も「きょうされん第43次国会請願署名・募金運動」の取り組みが始まりました。「あたりまえに働きえらべる暮らしを～障害者権利条約を地域のすみずみに～」をスローガンに掲げ、来年の5月まで、全国各地で取り組まれます。

障害者権利条約は、障害のあるなしにかかわらず、人としてあたりまえの権利と自由が認められる社会をめざし、日本政府も認めた国際条約です。しかし日本では昨年、旧優生保護法により強制不妊手術の被害にあった方たちが、国の謝罪と人権の回復を求め、全国各地で裁判を起こしました。こうした動きのなか、今年4月には被害者に対する一時金の支給法が成立しましたが、国によるはっきりとした謝罪はなく、支給額もきわめて低いなど、被害者の人権回復には程遠い内容となっています。

今回の署名では、請願項目の第一番目にこの問題をとりあげ、法律の改正を求めていくことになりました。二番目以降は、所得保障の根幹である障害年金の改善や、介護保険優先原則の廃止など、5つを請願項目に掲げています。障害のある人たちが地域の中で人としてのあたりまえの暮らしを築いていけるよう、多くの人たちに署名へのご協力をお願いしたいと思います。

郵送先

◆ 4月30日までに郵送してください。

〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
社会福祉法人ゆたか福祉会 法人本部

2019年度「社会福祉士相談援助実習」合同ガイダンス開催

今年度も大学や専門学校から、10名の方を5事業所で受け入れました。実習期間の中で、ゆたか福祉会を知っていただく機会としての合同ガイダンスは、今回で9回目となります。なるべく多くの皆さんの参加を可能にするために、今回は日程を2回、設定しました。

別々の事業所での実習者が集まり意見交換をする場合は、お互いの実習を知るきっかけになっています。また受入れ事業所においても、社会福祉職を希望する方々の学び意欲に応えていくことは、あらためて「現場」の役割を考える良い機会となっています。

【講義内容と実習者の感想】

■法人事業説明

テレビで放映された「戦後70年〜障害者はどう生きてきたか」を鑑賞し、現在に至るまでの歴史を共有しました。ゆたか共同作業所が多くの人たちの願いによって、たくさんの方々の心を動かしながら「無から有」へと歩んできたことについて、「昔からのつながりが、今でも意

味がある。地域の協力あつての福祉会であると思つた」「こちらの勝手な決めつけで、障害を持った方たちのごことを表現してはいけないと思つた」と感想がありました。

■障害者施策の最新動向（1回目）

「障害者権利条約」については、「まだまだ障害を持った人への古い先入観が、今もあるのではないか」「みんなできつしよに考えることが大切なのだとかわかつた」など、自分に引き付けた感想が聴かれました。

■実際に障害のある人とのかわり大切なこと（2回目）

動画を通していわゆる「社会モデル」での捉え方を学びました。実習者同士で絆創膏をはがし合う演習から、「共感や支援者の主観で行つている」ことを体験し、「知識だけでの支援では不十分であることがわかつた。その人を知ろうとすること」の理解が深まつたようでした。

■社会福祉士の業務について

実習者の進路として希望が増えつつある相談支援について、2事業所から報告を行いました。

「緑区基幹相談支援センター」からは、「障害者の地域生活を支える相談支援の実際」と題してお話がありました。最初に相談がもたらされてから福祉サービスにつながるまでに、相談員が地域の様々な職種とネットワークを作り、「ひとりの方の地域生活を支える」活動が紹介されました。「ゆたか通動寮」からは、「障害者の地域移行や職場定着の支援の実際」についてというテーマで話され、生活面や就労面での出来事を利用者と一緒に関心、葛藤する過程が信頼関係を築いていくことが伝えられました。

「当事者や家族の意思を大切にしている印象を受けた」「自立って何だろうっ」と考えた。利用者の方と一緒に思い出を作っていくという話から支援の視点が広がった」などの感想をはじめ、携わった職員にとっても直に率直な質問や意見を聞く場は、日々の実践を振り返る貴重な機会となりました。

ゆたか相談支援事業本部

丸山京子／倉林加恵

TOPIX

第二子誕生 育児休業を取得しました

〜育児休業を取るのが当たり前前の世の中の中〜



ゆたか生活支援事業所みどり

石田 誠樹

今回、育児休業を取ろうと思ったきっかけは、妻の妊娠・出産で第一子が生まれた際に、1ヶ月は妻も子供も外出が出来ず、長男の送り迎えや外出や買い物等が出来なくなってしまうことでした。

私も仕事の都合上、毎日朝・夕と自宅にいることは出来ず、両親に頼



るのにも限界があり、その1ヶ月の間に「育児休業をとって休む事が出来なにか？」と考えたことでした。熊谷所長に相談したところ「皆で仕事を振り分けるから、取ってもらって大丈夫だよ」と言っていたので、9月15日〜10月15日までの間、取らせていただきました。

育児休業中は、子供の保育園への送り迎えや家事全般をこなし、土日祝日等は長男を連れて外出するなどの日々を過ごしていました。振り返ってみると、通常の仕事をやるよりも疲れていたような気がしますが、長い時間、家族4人で過ごせたことはとても良かったと思います。

長男は通常はママにべったりですが、この1ヶ月間はパパにべったりでした。それも自分にとっては嬉しいことでした。保育園に送り迎えの際には、保育士さんや園児のお母さんたちと話す機会がありました。「育児休業中なんですよ」と話すと「ゆたか福祉会は男性が育児休業を取れるなんて凄

いですね。お母さんも助かるし、長男も喜びますね」と言っていたきました。

ゆたか福祉会の良い宣伝が出来たと思った反面、今の日本では男性が育児休業を取ることが「本当にごく少数なんだ」と気づかされました。もし自分が、休めていなかったら妻の負担や、どこにも行くことができず、家から出れずに過ごすことになる長男はどうなっていたんだろうと思います。まだまだそういう状況になっている家庭が多いと思うので、日本全体が男性の育児休業を取るのが当たり前前の世の中になってほしいと思います。

最後になりますが、快く育児休業を取らせてくださった熊谷所長と事業所みどりの職員の皆様、本当にありがとうございます。また、ゆたか福祉会には若い男性職員もたくさんいますので、多くの人が育児休業を気軽にとる事が出来るといいなと思っています。

2019年度 正規採用職員紹介 (12月1日付け入職)

ゆたか生活支援事業所みなみ **美田 亮介** みたらりょうすけ 趣味・好きなこと ゲーム、読書、カフェ巡り



大学卒業後、公務員やコンビニの店長、営業マンを経て現在に至ります。前職では毎日全国を飛び回っており、「腰を据えて働きたい」と思っていた時に、ゆたか福祉会と出会いました。

職場見学の際、みなさんがとても明るく、仕事の楽しさを知り、入職を決めました。福祉業界は初めてですが、謙虚さと尊敬の念をいつまでも忘れずに、知らないことをどんどん吸収していきたいです。また、いろんな資格にもチャレンジしていきたいです。



10月

日誌

- 2日(水) 就労事業推進委員会
- 4日(金) 社会福祉士相談援助実習
合同ガイダンス
- 6日(日) 大清水福祉センターまつり
- 15日(火) 事業運営推進会議
- 16日(水) 新管理職研修
- 19日(土) 地域ふれあい広場
- 20日(日) 福祉村キラリンまつり
- 25日(金) きょうされん第42回全国大会inあいち
(~26日)
- 26日(土) 緑区区民まつり
- 28日(月) 研修部会議
- 29日(火) 事務担当者研修
- 30日(水) 所長会議
- 31日(木) がんばるデイ
あいされん名古屋駅宣伝行動

一般寄附 (11月分)

ACCJ/NIS 中部ウォーカーソン

お米寄贈 農事組合法人 稲富ファーム 鋤柄修

賛助会員

(10月31日~11月23日手続き分) 順不同敬称略

- 佐藤 博宣 成田健一郎
- 岩山 芳美 社会福祉法人 TUTOR 伊藤幸子
- 大浦 光義 鈴木 峯保

※利用者・保護者・職員の方からも多くのご寄附をいただきました。
ありがとうございました

表紙の作者紹介



ゆたか生活支援事業所みどり 森井 照子さん

「ぬくもりの森にあそびに行って」

森井さんは、粕島ホームから大清水ホームに転居されて3年になります。日中は作業所に通い、休日にご自身で外出されたり、ホームでゆったりテレビを観たり、その合間に絵や絵に関する日記を書いたりしています。

ヘルパーさんや友人と色々な場所へ出かけたりすることも大好きです。今回の「ぬくもりの里」も、9月に友人と一緒に浜松に外出した時の思い出の絵画です。几帳面な性格で、この日のパンフレットや自作の計画案も、思い出と共に大事にしまっています。

森井さんの絵には、誰かと一緒に行った場所(思い出)や人物が複数描かれています。色使いも鮮やかで豊富です。絵画は特技で、みんなに見てもらったり、プレゼントすることが本人の活力になっているようです。

広報・443号

2019年12月号(2019年12月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

ゆたか福祉会 事業一覧

一人ひとり皆主人公。
みんなの夢が
息づく場所です！

法人本部

法人本部 ☎ 052-698-7356
ゆたか障害者福祉研究所

名古屋事業本部

ゆたか作業所(南区) ☎ 052-692-3531
みのり共同作業所(南区) ☎ 052-612-6237
リサイクルみなみ作業所(南区) ☎ 052-612-5391
トライズ(南区) ☎ 052-825-4022
ふれあい共同作業所(南区) ☎ 052-613-2479
ワークセンターフレンズ星崎(南区) ☎ 052-824-4450
なるみ作業所(緑区) ☎ 052-878-6921
ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-6912
つゆはし作業所(中川区) ☎ 052-353-3175
リサイクル港作業所(港区) ☎ 052-382-1933
みらいろ(港区) ☎ 052-382-3200

相談支援事業本部

緑区障害者基幹相談支援センター
障害者相談支援センターみどり(緑区) ☎ 052-892-6333
地域活動支援センターしかやま(緑区) ☎ 052-892-6006
ゆたか相談支援事業所どうとく(南区) ☎ 052-692-3539
相談支援事業所ゆたか通勤寮(南区) ☎ 052-611-7789
相談支援事業所ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-8776
ゆたか相談支援事業所あおなみ(港区) ☎ 052-382-1991

尾張事業本部

あかつき共同作業所 ☎ 0568-25-0171
あかつきヘルパーステーションはなキリン
ゆたか生活支援事業所尾張
ケアホーム徳重 ☎ 0568-22-8587
ケアホーム北野 ☎ 0568-68-8844
ケアホームあかつき ☎ 0568-54-2700

福祉村事業本部

第2ゆたか希望の家 ☎ 0536-65-0370
グループハウスなぐら
デイサービスなぐら【高齢】
生活サポートセンター名倉【相談】 ☎ 0536-65-0372

地域支援事業本部

ゆたか通勤寮 ☎ 052-611-7781
ライフサポートゆたか【ヘルパー事業所】 ☎ 052-825-4404
ゆたか生活支援事業所なかがわ
つゆはし板倉ホーム ☎ 052-354-0678
上脇ホーム ☎ 052-352-3266
あおなみホーム ☎ 052-355-9339
サテライトあおなみ
ホームみらい ☎ 052-383-5580

ゆたか生活支援事業所みなみ

ホームみのり ☎ 052-612-9480
元塩ホーム ☎ 052-614-4691
サテライト元塩 I・II
粕田ホーム ☎ 052-824-9590
ひろめホーム
第二八光荘 ☎ 052-612-3986
ひいらぎホーム ☎ 052-611-6955
かさでらホーム ☎ 052-618-7171

ゆたか生活支援事業所なるお

ほしぎきホーム ☎ 052-825-4359
ゆたか鳴尾寮 ☎ 052-613-3021
鳴尾ホーム ☎ 052-611-3588
第一八光荘 ☎ 052-614-4345
わかばホーム ☎ 052-614-2785
あさがおホーム ☎ 052-613-5606

ゆたか生活支援事業所みどり

大清水ケアホーム ☎ 052-876-8820
なるみホームひまわり ☎ 052-893-7575
かきつばたホーム ☎ 052-680-7777
みずひろホーム ☎ 052-715-8336

ゆたか生活支援事業所あつた

第1ホーム白鳥 ☎ 052-671-0067
第2ホーム白鳥
第3ホーム白鳥
第1ゆたかホーム太陽 ☎ 052-691-4004
第2ゆたかホーム太陽
明治ホーム

グループホーム エール ☎ 052-619-6052
エールI
エールII

名古屋高齢事業本部

ケアサポート宝南
デイサービス宝南 ☎ 052-618-0205
グループホーム宝南の家 ☎ 052-613-5081
宝南指定居宅介護支援事業所【相談】 ☎ 052-613-6055



その人らしく 働か 暮らす

Vol.83

仲間

「作業所の盛り上げ隊長に」



角町さんは今年4月になるみ作業所にやってきました新しい仲間です。

最初は緊張していた様子でしたが、「角町進といひますーよろしくお願ひします!!」と大きな声で挨拶ができました。とても明るい性格で、もう翌日には作業所に溶け込んでいるように見えました。

作業所では月に一度、音楽療法を実施しています。ある時、角町さんは自分からマイクを持ち、みんなの前で「ミッキーマウスマーチ」を歌い始めました。そんな姿を見て、いつもは引込み思案だった仲間が一緒になつて歌い始めたのです。はやくも盛り上げ隊長としての役割を果たし始めたようでした。

また今年の5月には仲間の会役員選挙があり、自ら立候補されました。結果は見事当選し持ち前の明るさと元気が他の仲間にも伝わり、「この人なら作業所を盛り上げてくれるだろう」と

なるみ作業所 角町進さん

いつもみんなの期待が込められていたように思います。仲間の会副会長になつた角町さんです。

自主製品班の仕事も、当初は戸惑っていましたが、現在では自分からどんな仕事にも取り組んでいます。きょうされん大会ではロックソールンも披露しました。

大忙しの角町さんですが、持ち前の元気で明るさで作業所を盛り上げていって欲しいと思います。

安藤玲偉



お仕事でもこの笑顔!!

職員

「入職して2年目 〜気持ちに余裕が生まれて〜」

ゆたか希望の家 丸田香織



大学時代に社会福祉士の実習で、生活介護の事業所で勉強させていただきました。日中だけではなく「利用者の生活全てを見たい」と思っていたところで、大学時代の先生にゆたか福祉会を紹介してもらいました。現在所属している「ゆたか希望の家」は、見学をさせていただいたときに「個人ひとりひとりをとても大切にしたい支援を行なっている」ところに惹かれました。

入職してから一年半が経ちました。昨年は仲間と関わったり、業務を覚えることに必死でしたが、今年度は気持ち的に余裕が出てきました。「この仲間のこういう行動や性格はどこから来ているのだろう」「この仲間は何を大切にしたいのだろう」「なにを考へることが増えました。」

正解はわかりませんが、それぞれの仲間の性格や大切にしたい思いを考へることで、昨年よりは関係性が強くなった仲間もいると感じています。私自身、仲間それぞれが気になることに初めから声をかけやす

るなど、支援がしやすくなったと思います。

また二年目になり、自分が大切にしたい事ややりたい支援も増えてきたので、その思いをどう周りの職員に伝えていったらいいかを考へることが増えました。

同じ考へえを持っている職員もいるので、その人たちと縁を作りながら、「人間らしい当たり前の生活や暮らしは何か」から仲間と緒に考へながら、今よりもっと自由で一人ひとりの仲間にあつた支援を増やしていければいいなと思っています。



仲間と楽しくにらめっこ (笑)